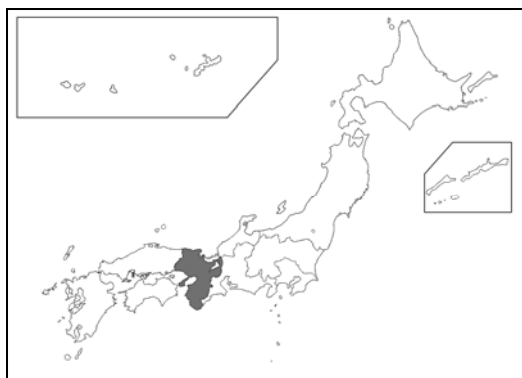


(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

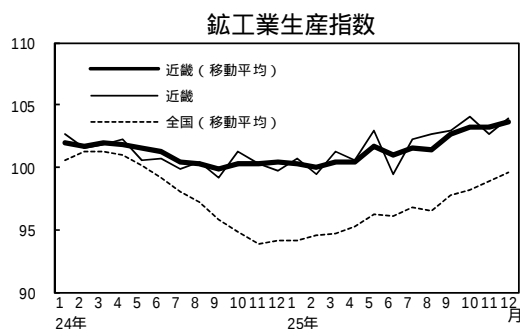
前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年11月)	今回(平成26年2月)	
雇用情勢	改善	着実に改善	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

10～12月期には、はん用・生産用・業務用機械は、化学機械等で減少した。化学は、ポリプロピレン等で、工場の定期修理による生産減少が回復したこと等から増加した。電気機械は海外向けの発電機用に、非標準変圧器の生産が増加したこと等から増加した。輸送機械は、軽乗用車や駆動伝導・操縦装置部品等の生産が増加したこと等から増加した。食料品・たばこは、その他の食料品、肉製品等で減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

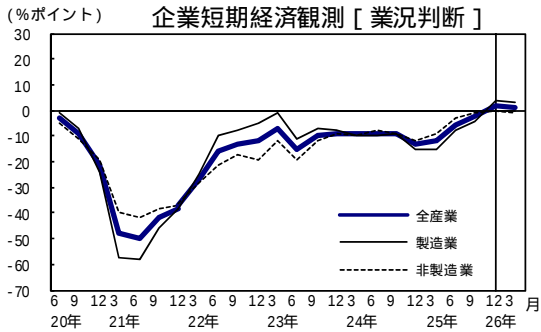
	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
はん用・生産用・業務用機械	17.4	5.0	▲1.4	6.2	▲7.9	▲1.8
化学	16.8	2.3	0.6	0.3	0.3	▲1.5
電気機械	9.0	4.7	7.4	▲0.6	1.7	2.5
輸送機械	8.4	▲5.1	7.2	8.4	1.4	3.0
食料品・たばこ	6.7	0.7	▲1.4	▲4.7	2.7	▲0.5
鉱工業	100.0	1.6	1.0	1.2	▲1.3	1.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

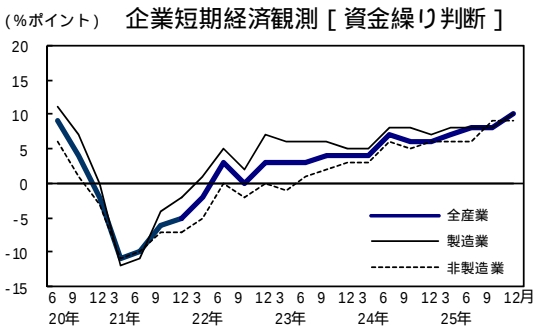
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

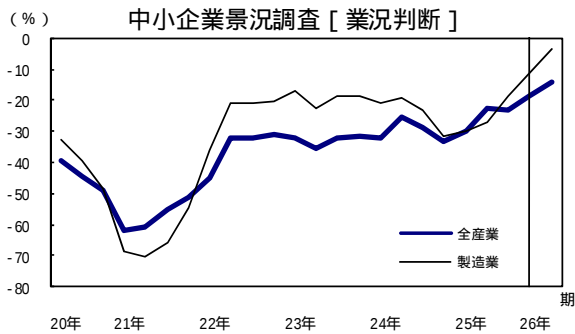
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



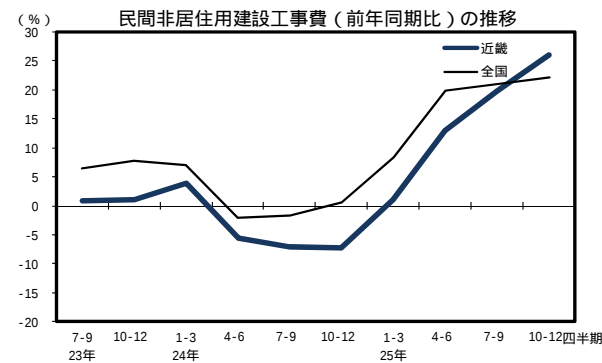
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]
「年末年始を迎え、消費税増税前の駆け込み需要の増加が明確に表れている。店舗施設、マンション、戸建住宅向けの受注や、家電商品の受注量が好調を示している(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度推
全産業	1.0	6.7(1.3)
製造業	▲2.7	5.4(1.1)
非製造業	3.6	7.6(1.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10月は前月比0.0%増、11月は同1.0%増、12月は同0.9%減となった。

大型小売店販売額

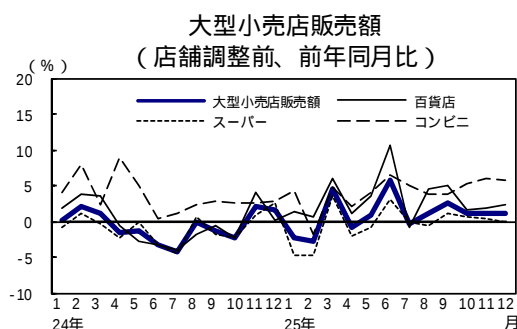
百貨店は、10月は高級時計が引き続き好調なこと等から前年を上回った。11月は、気温低下に伴いコートやブーツなど冬物ファッションが好調だったこと等から前年を上回った。12月は、クリスマス需要などで少し高価なアクセサリや洋品雑貨が良かったことに加え、ラグジュアリーブランドや高級時計等が引き続き好調だったこと等から、前年を上回った。

スーパーは、農産が野菜の相場高で好調で、畜産（牛肉、豚肉、鶏肉）も良かったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（1月）[家計動向関連（現状）]

近畿地域の家計動向関連DIは、53.7となり前月より0.4ポイント低下した。

「年明けの初売りも、年末セールの前倒しの影響で今一つ盛り上がり欠けている。福袋が朝一番に売れるだけであり、消費が極端に絞られている。客は2月の最終セールへの期待と、消費税増税対策の生活応援セールを待っている状態である（商店街）」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

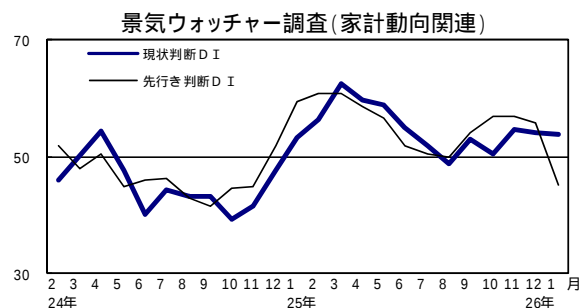
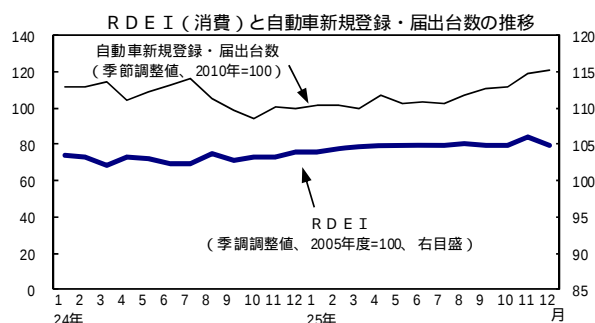


	25年10-12月	25年10月	11月	12月
RDEI（消費*1）	0.3	0.0	1.0	▲0.9
大型小売店(*2)	1.0	1.0	1.1	1.0
百貨店(*2)	2.0	1.7	1.9	2.3
スーパー(*2)	0.3	0.6	0.4	▲0.0
コンビニ(*2)	5.7	5.3	6.0	5.8
乗用車(*3)	19.0	17.7	15.8	23.9
(季節調整値)(*3)	9.6	0.9	6.2	1.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

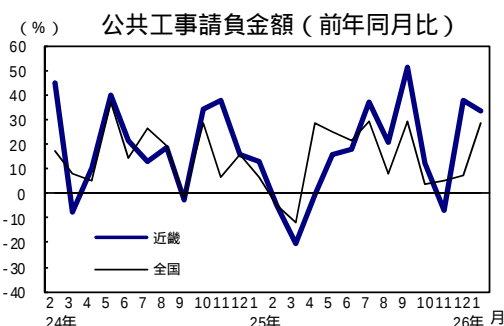
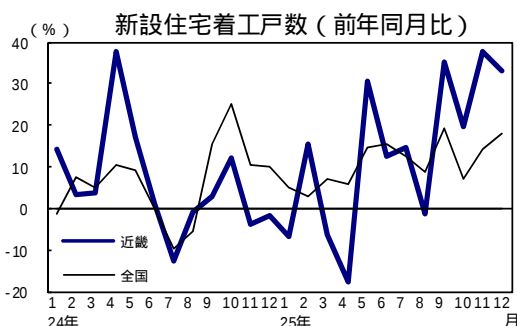
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

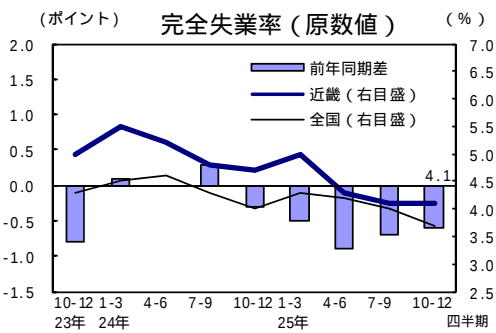
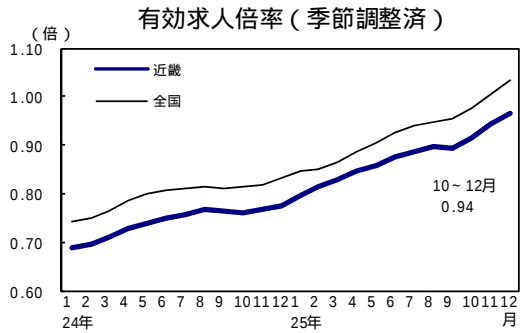
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

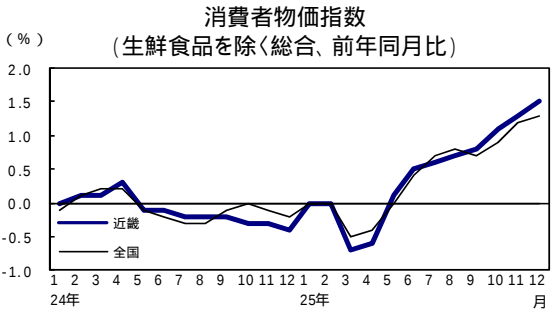


景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]
「製造業、建設業、運輸業の新規求人が非常に好調である。ただし、新規求職者が減少していることから、紹介数が大幅に減少している。その割に採用数は横ばいとなっており、紹介成功率の上昇がみられるなど、企業の採用意欲の向上と選考基準の緩和がうかがえる（職業安定所）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	26年1月
倒産件数	679	715	649	651	228
(前年比)	▲13.8	▲10.5	▲10.9	▲14.3	2.7
負債総額	706	1,045	1,321	905	293
(前年比)	▲30.7	▲33.2	▲71.7	▲21.1	4.0



- 景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・フル生産しても、取引先からの注文に対応できない状態が続いている（金属製品製造業）
<先行き>
・消費税増税対策の生活応援セールなど、増税前のまとめ買いを誘う企画による、売上増加の期待は大きい。また、4月以降も生活応援セールを開催する（商店街）。

